

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01238

研究課題名(和文) 娯楽文化史からとらえるエリザベス朝演劇 社会変化が生みだす総合エンターテイメント

研究課題名(英文) Elizabethan Theatre as a Popular Entertainment Industry

研究代表者

篠崎 実 (Shinozaki, Minoru)

千葉大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号：40170881

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：シェイクスピア劇などエリザベス朝の戯曲に取りこまれていた小唄の歌詞やダンスのト書き、大道芸、フェンシング試合(決闘)の場面、台詞に言及される熊いじめや売春業、飲食業、ギャンブル、「怪物」の見世物などに見られる、初期近代イングランドで栄えたさまざまな娯楽産業を、社会・文化的現象として、印刷文化の誕生、大都市ロンドンの肥大化、新大陸の発見などによるあらたな社会・文化的変化との関わりの中で、それ自体同様な社会・文化的環境の中で生まれたエリザベス朝の大衆演劇という娯楽文化を特徴づける研究で、各分野の娯楽の社会史的研究、その演劇的表象の分析、演劇産業の社会史的研究を行なった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義の第一点は、近代初期の文化状況の中で、劇場を取り巻く社会・文化史的な状況に目配りを効かせたうえで、大衆的なものであることによってその実態に関する研究が手薄であった、劇のエピソードに現われたり、台詞のなかに言及されたりする、小唄やダンス、大道芸、フェンシングや動物いじめ、売春業、飲食業などの大衆娯楽的な要素の社会史的研究を行なったことである。

第二点として、エリザベス朝演劇とそうした大衆娯楽の関係について、劇作品をそれらの姿をとどめるものとしてだけでなく、同等の文化的産物として、他の娯楽文化の創出や形成に影響力を持つものとして捉えた点である。

研究成果の概要(英文)： Analyzing popular entertainments, such as ballads, dances, street performances, monster shows, fencing matches, animal baitings, catering business (taverns and pub houses), visiting of Bedlam, as featured in episodes or referred to in speeches of Elizabethan Dramas, we conducted a study of Elizabethan Drama which characterizes theatre industry as one kind of the popular entertainments in the Early Modern English society, which was created by various socio-historical movements such as the enlargement of London, the development of print culture, the discovery of the New World, and so on.

The results are categorized as socio-historical study of popular entertainments, analysis of their representation in dramas, and socio-historical study of theatre.

研究分野：イギリス文学

キーワード：エリザベス朝演劇 シェイクスピア 大衆劇場 娯楽産業 見世物 大道芸 パラッド

1. 研究開始当初の背景

(1) シェイクスピアをはじめとするエリザベス朝の劇作家の作品は、文学作品として分析され、演劇の興行面の研究はなされても、大衆娯楽という側面から作品研究が行なわれることは稀であった。

(2) 他方、歌やダンス、大道芸、売春業、飲食業などのさまざまな娯楽産業は、社会史的な興味から個別に記述されることはあっても、娯楽産業としての特質をクローズアップされることはまれであった。

(3) そのような状況であったため、演劇と他分野の娯楽産業の関係が取り上げられることは少なかった。

2. 研究の目的

(1) シェイクスピアをはじめとするエリザベス朝の劇作家の劇作品を、さまざまな形態の娯楽を取り入れた総合エンターテインメント産業の作品として捉え、劇作品のもつ娯楽性をその分析の中心にすえること。

(2) 同時に、劇作品を社会の実相を映し出す表象作品として捉え、そこに映し出されている娯楽文化の分析を行ない、従前の社会史的研究を補強すること。

(3) また、影響力の強いメディアとなった演劇は、他の娯楽の文化に大きな影響力をもつことになったため、演劇がさまざまな娯楽文化に対して振るった影響力を分析すること。

3. 研究の方法

本研究では研究分野を、エリザベス朝演劇と関連の深い以下の7部門とした。(1)行商大道芸、(2)熊いじめ等虐待見世物、(3)売春、(4)居酒屋等飲食業、(5)小唄・ダンス、(6)ギャンブル、(7)怪物・狂気系見世物。研究代表者および分担者が、それぞれの分野を担当し、それぞれの娯楽分野の社会史的研究、演劇的表象、演劇産業との関わりを、具体的な劇作品の分析を中心に行なった。

4. 研究成果

(1) 第1部門の「娯楽大道芸」に関しては、研究代表者の篠崎実が担当し、『ヴォルポーネ』(Volpone)などベン・ジョンソンの大衆劇作品における大道芸などの要素や、仮面劇におけるバラッドの要素を分析し、ジョンソンの劇作品が、大流行したバラッドや演劇における大道芸表象のモデルを生みだすに至る過程を分析し、その研究成果を、シェイクスピア学会での研究発表や、シェイクスピア協会編纂の論文集に発表した。また、歴史劇という大衆劇場で人気を博した分野についての業績をあげることで、太守劇場の演目のあり方に関する研究の端緒を開いた。

(2) 第2部門「熊いじめ等動物虐待見世物」は、研究分担者の岩田美喜が担当し、中世から初期近代イングランドにおいて熊いじめと牛いじめが有していた歴史的意味の差異を検証した上で、シェイクスピアの喜劇『十二夜』(Twelfth Night)と『マクベス』(Macbeth)における熊いじめ表象を分析するという新たな批評的視点を、シェイクスピア劇の解釈に加えた。

(3) 第3部門「売春」は研究分担者の末廣幹が担当し、シェイクスピアの『尺には尺を』(Measure for Measure)とジョン・マーストンの『オランダ人娼婦』(The Dutch Courtesan)を16世紀末の売春取り締まりと関連づけて論じ、売春取り締まりの失敗を、劇作家がジェ

ントルマン階層の性道德の乱れにずらし、結婚という社会規範による回収という形で喜劇を作り上げていることを論じ、シェイクスピアの問題劇がもつ問題性を社会史的に説明する視点を切り拓いた。

(4) 第4部門「居酒屋等飲食業」は研究分担者の土井雅之が担当し、当時のロンドンの宿泊所(イン)と飲食店(タヴァーンとエールハウス)について調査を行ない、ハリソン(William Harrison) やストウ(John Stow)の社会史的記述や、劇作家たちの作品から得られる情報には、ほとんどがタヴァーンに関するものであるという大きな偏りがあるという知見をえ、タヴァーンの調査をさらに『ヘンリー四世 Henry IV』2部作の作品解釈に応用し、シェイクスピア学会で発表を行ない高い評価をえた。

(5) 第5部門「小唄・ダンス」は研究分担者の中野春夫が担当し、シェイクスピアの『マクベス』(Macbeth)における「3人の魔女」の小唄、さらにはミドルトンの『魔女』(The Witch)におけるヘカテの宙乗りやベン・ジョンソンの『女王たちの仮面劇』(The Masque of Queens)での12人の魔女の合唱など、登場人物として魔女をフィーチャーする、ミュージカル的な娯楽性を16世紀、17世紀イングランドの娯楽文化史という新たな脈絡から検証した。また座付き作家としてのシェイクスピアの創作ぶりについての学会セミナーでの発話を行ない、高い評価をえている。

(6) 第6部門「ギャンブル」は研究分担者の丹羽佐紀が担当した。『冬物語』(The Winter's Tale) 『ウィンザーの陽気な女房』(Merry Wives of Windsor)、 『アビントンの焼きもち女房たち』(Pleasant Comedie of the Two Angry Women of Abington)におけるいかさまサイコロの描写とロンドン・フラム地域の関係についての調査と、『ハムレット』(Hamlet)における決闘の場面と賭けの誤算との関連性の分析、 『じゃじゃ馬ならし』 『(Taming of the Shrew) , 『優しさで殺された女』(Woman Killed with Kindness)に賭博表象の分析を行なった。

(7) 第7部門「怪物・狂気系見世物」は研究分担者の松岡浩史が担当し、シェイクスピアの『リア王』(King Lear)、 『リチャード三世』(Richard)を題材とし、狂人・怪物見物の娯楽化というコンテクストの中で、悪魔祓いの儀式や畸形を呼び物にする興行が初期近代の演劇作品の中で娯楽の対象として消費されていたことを検証した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 篠崎実	4. 巻 67
2. 論文標題 舞台まるごとを鏡にして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Shakespeare Journal	6. 最初と最後の頁 31-0
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中野春夫	4. 巻 67
2. 論文標題 シェイクスピア劇と売春業	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学習院大学文学部研究年報	6. 最初と最後の頁 105-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 丹羽佐紀	4. 巻 44
2. 論文標題 Hamlet as a 'Wager': Duel for a Bogus Winning Game, and What Claudius' Miscalculation Muenas in the Play	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 VERBA 鹿児島大学言語文化論集	6. 最初と最後の頁 35-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 丹羽佐紀	4. 巻 72
2. 論文標題 いかさまサイコロとフラム地域 初期近代ロンドンのmarketとの関わりにおいて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鹿児島大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 47-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹羽佐紀	4. 巻 72
2. 論文標題 Teaching Shakespeare's Plays from the Viewpoint of Comprehensive Art	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鹿児島大学教育学部研究紀要 教育学編	6. 最初と最後の頁 119-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩田美喜	4. 巻 7
2. 論文標題 トマス・ミドルトンの初期諷刺喜劇における女性表象	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Shakespeare Journal	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末廣幹	4. 巻 44
2. 論文標題 ウィリアム・ウィッチャリーの『田舎女房』における酔歌考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本ジョンソン協会年報	6. 最初と最後の頁 17-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠崎 実	4. 巻 6
2. 論文標題 「舞台まるごとを鏡にして」 『気質なおし』に見るジョンソンのキャリア創出	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Shakespeare Journal	6. 最初と最後の頁 31-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野 春夫	4. 巻 18
2. 論文標題 エリザベス朝演劇のレビュー、「魔女」の娯楽性の生成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『人文』（学習院大学文学部研究紀要）	6. 最初と最後の頁 39-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野 春夫	4. 巻 66
2. 論文標題 シェイクスピア・ビジネスの誕生 ジェイコブ・トンソンとニコラス・ロウ編集版テキスト（1709年）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学習院大学文学部研究年報	6. 最初と最後の頁 53-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 丹羽 佐紀	4. 巻 なし
2. 論文標題 アンティゴナスの死と忘れられた貞節 『冬物語』におけるもう一組の夫婦について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『十七世紀英文学における生と死』	6. 最初と最後の頁 95-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丹羽 佐紀	4. 巻 71
2. 論文標題 『リア王』における二人の姉妹と愛情分割について エドモンドをめぐる確執の構造	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『鹿児島大学教育学部研究紀要』	6. 最初と最後の頁 39-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 丹羽 佐紀	4. 巻 43
2. 論文標題 不貞といかさまバクギャモンをめぐる「探り」の場面の劇的效果 A Pleasant Comedie of the Two Angry Women of Abington における疑惑の描写をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『鹿兒島大学言語文化論集 (VERBA) 』	6. 最初と最後の頁 25-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 岩田 美喜	4. 巻 -
2. 論文標題 「『あわれ彼女は娼婦』に見る 男女の双子 という幻想の終わり	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 十七世紀英文学における生と死	6. 最初と最後の頁 113-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miki Iwata	4. 巻 -
2. 論文標題 Tony Lumpkin in and out of Sweet Auburn: The Literary Topography of Oliver Goldsmith's She Stoops to Conquer.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Irish Literature in the British Context and Beyond: New Perspective from Kyoto, edited by Hiroko Ikeda and Kazuo Yokouchi	6. 最初と最後の頁 31-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡浩史	4. 巻 49
2. 論文標題 Book Review: John Kerrigan, Shakespeare's Originality	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Shakespeare Studies	6. 最初と最後の頁 26-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 土井雅之
2. 発表標題 シェイクスピア独自のフィレンツェ像はどのように形成されたか
3. 学会等名 日本英文学会92回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 篠崎 実
2. 発表標題 『ヴォルポーネ』における大衆娯楽的要素 をめぐって
3. 学会等名 科研費プロジェクト第1会研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 篠崎 実
2. 発表標題 『ヴォルポーネ』における大衆娯楽的要素 をめぐって
3. 学会等名 第58回シェイクスピア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 土井 雅之
2. 発表標題 シェイクスピア作品におけるベネチア（プレ発表）
3. 学会等名 Stuart朝研究会第60回秋例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 土井 雅之
2. 発表標題 シェイクスピア作品におけるベネチア
3. 学会等名 第58回シェイクスピア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中野 春夫
2. 発表標題 ニコラス・ロウ編集テキスト(1709年)とシェイクスピア・ビジネス
3. 学会等名 第58回シェイクスピア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中野春夫
2. 発表標題 魔女たちの小唄
3. 学会等名 科研費プロジェクト第1会研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丹羽 佐紀
2. 発表標題 Does Caliban Establish a Kingdom? Language and Alcohol as the Potential Magic for Nationhood
3. 学会等名 The Annual Conference of British Shakespeare Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丹羽 佐紀
2. 発表標題 シェイクスピア学会セミナー3「見る・観ることの多様性について」
3. 学会等名 第58回シェイクスピア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丹羽 佐紀
2. 発表標題 いかさまサイコロとフラム地域 初期近代ロンドンのmarketとの関わりにおいて
3. 学会等名 科研費プロジェクト第2回研究会×九州シェイクスピア研究会第189回例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩田 美喜
2. 発表標題 若きミドルトンの女性表象
3. 学会等名 第58回シェイクスピア学会、特別シンポジウム「初期近代英文学と女性」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩田 美喜
2. 発表標題 「目に見える自分の姿を保てんだ」――『マクベス』と『アントニーとクレオパトラ』に見る英雄の見世物化
3. 学会等名 科研費プロジェクト第2回研究会×九州シェイクスピア研究会第189回例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 末廣 幹
2. 発表標題 In Vino Veritas? 『テンベスト』第2幕第2場の酔歌の再考
3. 学会等名 科研費プロジェクト「シェイクスピア劇の小唄 テキストに埋め込まれた聴覚的連想イメージ・コード」第10回研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 岩田美喜（共著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Peter Lang	5. 総ページ数 228
3. 書名 Irish Literature in the British Context and Beyond	

1. 著者名 岩田美喜（共著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Bucknell University Press	5. 総ページ数 192
3. 書名 Johnson in Japan	

1. 著者名 松本朗、岩田美喜、木下誠、秦邦生編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三修社	5. 総ページ数 408
3. 書名 イギリス文学と映画	

1. 著者名 篠崎実	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 258
3. 書名 リチャード二世	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	土井 雅之 (Doi Masayuki) (00614992)	文教大学・文学部・准教授 (32408)	
研究分担者	中野 春夫 (Nakano Haruo) (30198163)	学習院大学・文学部・教授 (32606)	
研究分担者	丹羽 佐紀 (Niwa Saki) (40244272)	鹿児島大学・法文教育学域教育学系・准教授 (17701)	
研究分担者	岩田 美喜 (Iwaka Miki) (50361051)	立教大学・文学部・教授 (32686)	
研究分担者	末廣 幹 (Suehiro Miki) (70264570)	専修大学・文学部・教授 (32634)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松岡 浩史 (Matsuoka Horoshi) (80780048)	熊本大学・大学院人文科学研究部（文）・准教授 (17401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関